

今日から始める
自然観察

日本で子育てする ツバメの暮らし



きたむら ひたる
北村 亘
東京都市大学環境学部
准教授。専門は行動生態
学・保全生物学・鳥類学。

春になると東南アジアから繁殖のために渡ってくるツバメたち。近年は街中でカラス類に襲われる巣が増えたため、目立ちにくい建物の奥まったところに巣を作る傾向が増えてきています。子育ての邪魔をしないよう、巣に近付きすぎないようにして、そっと彼らの暮らしを見守りましょう。特に、親がチュピーッと鳴いたら警戒している合図です。



ツバメの暮らしには、巣作りのための泥や枯れ草、餌となる虫が必要。

ソングスポット♪

ツバメのオスは、巣のそばにソングスポットと呼ばれる縄張りを守るためにさえずりながらとまる場所を持つことがよくある。春先にオスが電線などでチュルリチュルリ、ジャーとさえずっていたら、しばらく遠くから眺めてみよう。すると建物の陰や駐車場の中などに入っていく姿を見ることができ、付いていくと巣を発見できる。ソングスポットから巣までの距離は50mもないことが多い。



巣立った若鳥が親から餌をもらう様子。若鳥は親と比べてのどと額の赤色が淡く、くちばしの周りは黄色。尾羽が短い。

ツバメの一年

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日本			(巣作り)	卵	卵	子育て	子育て					
東南アジア	越冬											越冬

2回繁殖をするツバメは、1回目の繁殖の際は古巣を修復して使うことが多い。抱卵期間と育雛期間はそれぞれ約3週間で小鳥の中では長い。

ツバメは4月から8月ごろまで日本全国で繁殖をする夏鳥です。3月ごろに日本の南の地域で見られるはじめ、暖かくなるとともに徐々に北上します。

民家の軒先などの建物の壁に泥を貼り付けて作るお椀型の巣はよく見かけることでしょうか。巣は作り始めから一週間くらいで完成しますが、最後に巣材として鳥の羽根を入れるので、羽根をくわえた親がいたら、その巣では数日内に卵を産み始めます。また、その後も地面に落ちた卵の殻を見つけれることがあり、孵化した日が分かるようになります。

一度に産む卵は5〜6個で、早ければ4月には産卵をはじめ、3週間ほどでひなが孵ります。その後、さらに3週間ほどかけて巣立つ大きさになります。ひなが孵ると親は数分に1回ほどのペースで熱心に餌を運んでくれます。餌は小さな昆虫などで、飛びながら口で捕まえてひなものに運びます。


ツバメが浮気!?

ツバメはつがいだけで子育てをする

	ツバメ	コシアカツバメ	イワツバメ
見た目	 <p>細長い流線型の体に細長い翼と二又に分かれた尾羽を持っている。尾はオスの方が長いので、つがいだとまわっているとオスとメスの区別が付きやすい。背中側は全面黒いが、オスの方が構造色による光沢が強く、ここでも見分けがつかうことも。腹は白く、のどと額は赤茶色をしている。</p>	 <p>飛んでいるときは名前の由来にもなっている赤い腰（実際は薄いオレンジ）が見えると、他種と簡単に見分けがつく。のどから腹にかけては全体的に白いが、黒い斑点模様がついている。眼の後ろに少し赤い羽毛がある。首回りが白いせいか、ツバメと比べるといかり肩のように見える（と筆者は思っている）。</p>	 <p>飛んでいるときは背中側に白い模様が見えると、他種と簡単に見分けがつく。腰を除く背中側は黒色で、顔も含めた体の下側は白色と、完全に二色。ツバメよりもずんぐりとした丸いフォルムの胴体を持っており、翼の幅も少し広い。尾羽が長くないのが特徴。実は足に白い毛が生えている。</p>
生息環境	日本全国に生息しており、住宅街や農耕地に多く見られる。河川沿いでは餌をとっている姿をよく見ることができる。	本州以南に夏鳥としてやってくるが、主に西日本に多く見られる。ツバメと同様、住宅街などで普通に見ることができる。	日本全国で見られる。山地や海岸の崖地などに集団で巣を作っていることが多い。街中でも大きな橋の下などに巣を作っていることがある。
巣の形	 <p>いわゆるお椀型の巣をしている。お椀を半分にしたものが壁に付いている。上側は全てあいていて、天井にはくっ付いていない。</p>	 <p>お椀型の巣が天井まで伸びており、入り口はさらストローのように伸びて天井に張り付きとっくり型になる。独特な巣なので間違えることはない。</p>	 <p>ツバメと同様お椀型の巣だが、ツバメよりも高さがあることが多い。ほとんどの場合天井まで巣が伸びていて、一カ所に穴があるが、ごくまれに上側全体があいている巣もある。</p>

北

ショウドウツバメ



北海道や東北地方の一部に夏鳥として飛来する。名前の由来は土壁に小さな穴（小洞）を掘ってその中に卵を産むことから。色は全体的に茶色く、腹側は白い。のどの周りが黒く、首輪のように見える。尾羽はツバメほど長くなく、止まったときは翼と同じくらいの長さ。

南

リュウキュウツバメ



日本では奄美諸島や沖縄諸島で見られる留鳥。ツバメによく似ているが、尾羽が短く、止まったときに翼の先と同じくらいの長さに見える。額やのどはツバメと同じように赤い色をしているが、胸から腹にかけては薄灰色をしている。

※ツバメと名が付いているが、ツバメの仲間ではない鳥もいる。例えば、ヒメアマツバメは、アマツバメ目という全く違う仲間の鳥。ゾウとキリンくらい違う。

一夫一妻の鳥ですが、実は3割くらいの巣で浮気していることがDNAを使った調査から分かっています。ツバメはメスがオスを選びます。ヨーロッパでは、尾が長いオスほどモテるという研究結果がありますが、日本では、のどの赤い部分が大きかったり、鮮やかだったりするオスがモテるようです。

巣立った後のひなはしばらく、親と一緒に移動しながら、巣の外で餌をもらう暮らしを続けます。ある程度育つと親は2回目の繁殖に取り掛かることがあります。

若鳥たちは彼らだけで群れ、ヨシ原などをねぐらにすることが増えてきます。8月になると繁殖を終えた親も合流して大きな集団ねぐらをつくります。9月ごろには南の国で越冬をするために日本を飛び去っていきます。

EPSON
EXCEED YOUR VISION

本コーナーは、エプソン純正カートリッジ引取回収サービスを利用されたお客様のポイント寄付によるご支援をいただいております。